AW基準を学ぶ連続講座 第2回
講義録(概要)

講座日：2021/3/6

報告　：AWFCJ個人会員 赤坂俊哉

講座概要

目的

AWFCJとしてアニマルウェルフェアに関する考え方を整理するためのインプットとして、
アニマルウェルフェアに関する国内の既存基準を理解する

実施項目

1. **畜産技術協会「アニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の飼養管理指針」の解説**
   公益社団法人 畜産技術協会 八木淳公氏
2. **アニマルウェルフェア畜産協会「アニマルウェルフェア認証制度」の解説**
   一般社団法人 アニマルウェルフェア畜産協会 瀬尾哲也氏
3. **フリーディスカッション**
   講演者+参加者全員

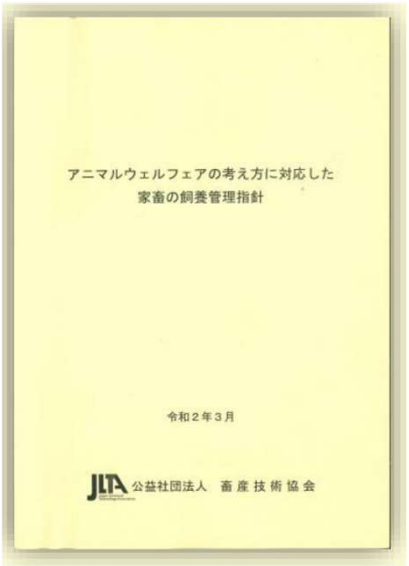
アニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の飼養管理指針

■ **ご講演抄録** ～ 公益社団法人 畜産技術協会 八木淳公氏 ～

- 国内の立法・行政におけるFAW議論は、動物愛護法⇒産業動物の飼育及び保管に関する基準(環境省告示)と続き、その後、OIEの陸生動物衛生規約を参考にして、H29年、農水省より「AWに配慮した家畜の飼養管理の基本的な考え方について」という畜産振興課長通知が発出されるに至っている
- 畜産技術協会が作成する「AWの考え方に対応した飼養管理指針」は、R2年の同通知改定時に、各畜種における詳細な飼養管理指針について参考とすべきものとして指定された
- OIE基準は、 AWの基本的な考え方(理念的なもの)を中心とした記述であり、畜産現場における実務的な記述(飼育方法や細かな数値など)にはなっていない
- 「AWと言えば放牧が必要、設備充実が必要」などの間違った印象を持つ農家も多い
- 実際のAWは、家畜の観察や、水槽の清掃など、当たり前のように行われていることも含んでおり、日々の実務の延長で少しずつ実践していくことが可能、かつ、安全性・生産性の向上に繋げることが可能なものである
- 上記を踏まえ、実践方法の具体化・分かりやすさを重視して、指針を作成している
- 「5つの自由」の観点から、実践すべき内容をチェックリストの形でまとめている

■ **AWFCJによる補足**

- 本指針のチェックリストを活用することでJGAPを取得することができる


アニマルウェルフェアの考え方に対応した
家畜の飼養管理指針

令和２年３月

公益社団法人 畜産技術協会

アニマルウェルフェア認証制度

■ **ご講演抄録** ～ 一般社団法人 アニマルウェルフェア畜産協会 瀬尾哲也氏 ～

- AWの観点から農場を評価する方法論について2004年に研究をスタートさせた
- 先行するEUの認証制度(Welfare Quality)は、日本の放牧を行っていない農場を極めて低く評価してしまう仕組み
- 国内では、乳用牛農家の7割が繋ぎ飼いによる飼育を行っているため、上記のような基準では、AWの認証・普及は一向に進まない
- 上記を踏まえ、先行研究を参考としながら独自の乳牛評価方法を開発
- 「よつ葉乳業」と共同で、同評価方法を使ってAW商品を開発・商品化(生産農家にはプレミアム乳価を提示)
- その後、FAWの普及を目的に一般社団法人アニマルウェルフェア畜産協会を設立
- 2017年に、乳牛を対象として、AW認証制度を創設 (現在、肉牛向けの認証制度も準備中)
- 認証は、農場を対象とした農場認証と、加工事業所を対象とした食品事業所認証の2種類から構成される (商品にロゴを掲載するためには、生産農場、食品事業所の双方が認証を取得している必要がある)
- 農場認証は、動物、施設、管理の3ベース52項目の評価項目から成り、全ベースとも8割以上の項目で基準を満たすことで認証取得となる (合格基準を100%としないのは、AW認知が進んでいない国内で、取得意欲・実績を盛り上げていくため)
- フリーストールであれば合格しやすというものではない。飼育方法に関係なく、牛が不健康、飼育管理が不適切であれば合格しない

一般社団法人 アニマルウェルフェア畜産協会

アニマルウェルフェア畜産認証

両基準の比較

	AWの考え方に対応した家畜の飼養管理指針	アニマルウェルフェア認証制度
作成	公益社団法人 畜産技術協会 Japan Livestock Technology Association	一般社団法人 アニマルウェルフェア畜産協会
背景 & 目的	実務での具体的なAW実践方法をまとめたガイドがなく AW＝放牧・設備投資＝敷居高い、という誤解も蔓延 ⇒ AWに関する理解の促進を目的に、 畜産農家向けにAW飼養管理の指針を具体化	欧州の既存AW基準では、国内主流の繋ぎ飼い酪農家は 自ずと低評価となってしまうため、一向にAWが普及しない ⇒ AW普及を目指すため、放牧を評価の一項目と捉え 放牧ありきでない評価基準・認証制度を策定
歴史	2009年に作成 / OIE規約の更新等を踏まえ、随時改訂	2016年創設 / 現在乳用牛対象だが、肉用牛に拡張予定
対象	肉用牛 乳用牛 豚 肉用鶏 採卵鶏	肉用牛 乳用牛 豚 肉用鶏 採卵鶏
項目	「5つの自由」を実践するための具体的な実施項目	動物、施設、管理の3ベースでAW達成度を評価する項目
適用 方法	チェックリストを活用し、実践度合いを定期的にチェック	審査員による客観的評価(全ベースとも80%達成で合格) ※ 農場評価と事業所評価の2種類があり、 両方を取得しないと商品へのロゴ掲載は不可
進展	• 農水省畜産振興課長通知「AWに配慮した家畜の飼養管理の基本的な考え方について」(R2年)で、参考とすべき飼養管理指針として指定される • JGAPのAWの項目では、本指針に基づいた対応が必要とされている	• 13件の農場が認証取得(北海道:12件、岩手1件) • うち6件は事業所認証も取得 • 本州の農場からも取得希望あり

フリーディスカッションにおける主なコメント・やり取り (1/2)

AWに取組む意義

獣医師※
AW認証制度の背景思想として、大規模化、機械化・自動化が進み、発病ぎりぎりまで肥満化させることが畜産技術と称されるような現状に歯止めを掛けたいという想いがある※AW認証制度の創立に関わった獣医師

獣医師※
AW基準は、文化・宗教を踏まえるべき。日本では古来、家畜塚を建てるなど家畜を慈しむ文化がある。それを落とし込む形で基準を作るべきで、欧米のものとは違った形になるはず※上記と同じ獣医師

小売業関係者
自社でもAWに取り組む意義を議論をしているが、伝染病流行防止と薬剤耐性菌の発生抑止、それによる人への健康被害防止こそが意義ではないか。AWの実践が伝染病抑止に繋がるという事実はあるか？

研究者
抗菌性物質の忌避は、欧州・米国でも重視されている。ただし、AWの取組みが伝染病の防止に繋がると示すようなデータはないとの認識

養鶏農家
平飼い飼育だと暴露されることが多くなるため、免疫・ウイルス耐性はケージ飼いよりも強化されていると思うが、それを実証するようなデータはない (むしろ欲しい)

瀬尾氏
目の前の家畜が幸せになることがAWの根本ではないか (生産者・環境への還元は結果として付いてくるもの)

評価方法

研究者
JGAPや農場HACCPはAW実践の観点からどの程度評価できるのか？また、学術界でも理論や適用風土に応じて様々な基準が林立し統一解がないなか、どのように認証基準を決めていくべきか？

瀬尾氏
JGAPは自己申告ベースであり不十分と考える。AWの普及を目指すのか、トップレベルの農場を認証したいのかで考え方は違う。風土よりも動物の状態を評価することが重要。日本の現状に合う研究成果を参考にすべき

八木氏
JLTAの飼養管理指針はJGAPで利用されているが認証のために作ったものではない(AWの理解促進のために作った)ため、認証方法として評価するのは適切でない

生産者
現場は千差万別であるため、画一的な基準で評価されるとなると身構えてしまう

フリーディスカッションにおける主なコメント・やり取り (2/2)

経営との両立

研究者：AW認証を経営に活かすことは可能か？ (生産者にとって認証取得のモチベーションは何か？)

瀬尾氏：大手に出荷している(＝商品にロゴを掲載できない)農場も農場認証を取得しており、モチベーションとしては、「外部へのアピール」、「従業員教育」、「AWに関心のある従業員の採用」、「商品の付加価値向上」、「長期視点での生産性・健康性向上」などが挙げられる

獣医師※：農場認証を取得した農場の多くは、元来より食に対する誇りや哲学を持って日々改良を重ねており、その一環でAW認証を取得したに過ぎない (収益への反映をそもそも目的としていない) ※AW認証制度の創立に関わった獣医師

生産者：生産者としては、生産性に繋がらないとモチベーションが湧かない。その繋がりが生まれるような普及活動を望む

成果と課題 (案) ※AWFCJ内部向け

論点		今回分かったこと	引き続き検討すべき課題
AWFCJとしてAWをどう定義するべきか？	国内では現状AWはどの程度実践されている？	• 畜産農家の間では、AWの概念の認知・理解が始まったばかりで、具体的な実践内容はほとんど知られていない • 欧州に倣い、放牧を前提としたり、厳正な評価に晒したりすると、ほとんどの国内農家が低い評価になってしまい、普及が進まない	• 先進的にAWに取り組む動きは、今後どの程度加速していくのか？ • 大規模の企業農場の間で、AWに関連した動きはないのか？
	どのような理想像を目指すか？	• コミュニティ内には非常に多様な見解がある ✓ 家畜の幸せが目標 (AW認証創設者) ✓ 畜産物の安全性、消費者の健康促進が意義 (小売事業者) ✓ 農業哲学・思想の一部として組み込まれるべき (獣医師)	• AW定義に先立ち、目指す理想像に関するコミュニティーとしての統一見解を整理するか？ • 整理する場合、多様な見解をいかに収斂させていくか？
	その理想像をどう実現するか？	• いきなり理想を目指すよりも、国内農家が無理なく実践できる所から始めて、段階的に高みを目指すアプローチが必要	• AWFCJでは、どのような形(基準策定/認証)でAWの促進を図るのか？ • 経営体である畜産農家にAW促進のモチベーションを持ってもらうには、どのような条件が必要か？